

令和2年度 学校自己評価システムシート (県立上尾橋高等学校)

目指す学校像	地域に根ざし、生徒一人ひとりを伸ばし、自立(律)して社会を支えられる人間を育てる。
--------	---

重点目標	1 社会に通用する言葉遣い、身だしなみ、マナーを身に付けさせる効果的な生徒指導を推進する。 2 基礎学力向上のための指導技術研究と新しい学習指導要領の「深い学び」への対応を進める。 3 就職内定率を維持しながら、進学希望への対応も一層充実させる。 4 地域に根ざし、信頼される開かれた学校づくりを進める。 5 「高等学校における通級指導」について、来年度実施に向けて準備を進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価				年度評価(2月 1日 現在)			
年 度 目 標			年度評価(2月 1日 現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>〔現状〕 生徒の基本的な生活習慣や規律意識は全体的に改善傾向にあり、協調性も向上している。また遅刻指導も成果を上げている。しかし規範意識、生活リズム改善の意識が薄い生徒がおり、なお改善の余地がある。中途転学、進路変更の生徒はなおいる。</p> <p>〔課題〕 生徒指導と学習指導が連動し、生徒の高校生活を充実させる仕組みを作ることが必要である。また家庭と連携を図り、生活リズムの改善させることが必要である。</p>	<p>○規範意識の醸成に向けた取り組みにより、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>○学校行事や部活動を充実させ、生徒の自立(律)意識の向上を図る。</p>	<p>①生徒の模範となる正しい言葉遣い、毅然とした指導、受容的な指導を進める。 ②遅刻指導を生徒指導部を中心に教職員全体で取り組む。教務部、学年を中心に皆勤、精勤を奨励する取り組みを実施する。 ③学校と家庭、関係機関と情報共有、連携して生徒の生活改善に取り組む。 ④生徒の健診結果などを個別相談、三者面談に活かし、基本的な生活習慣の確立、生活リズムの大切さを指導し、改善を図る。</p>	<p>①②③④アンケート結果やPTAからの意見で「信頼される学校である」の割合が90%以上か。 ②③④遅刻、欠席件数がそれぞれ5%以下か。 ②③④皆勤率が20%以上か。 ①②③④学校自己評価アンケートで、基本的な生活習慣に関する内容の達成度が80%以上か。 ④個別相談、三者面談を効果的に実施し、個々に応じた指導ができたか。</p>	<p>生徒の生活習慣が改善され、信頼される学校づくりの成果が上がってきている。 ①②③学校の指導に対し、肯定的な意見の割合は90%前後と昨年度と同様だが、積極的な肯定の割合が増えた。 ②遅刻件数4.1%、欠席件数4.0%であった。特に欠席は減少した。しかし、コロナ禍による欠席の特例の恩恵も一因であると思われる。生活リズム確立への働きかけを引き続き行い、遅刻、欠席の減少につなげる必要がある。 ②③④無欠席、無遅刻、無早退数96人、24%(1/15現在)。 ①②③④概ね目標は達成できた。 ④コロナ禍のため、二者面談は1回のみだったが、学年を始めとした協力体制で個々に応じた指導を行えた。</p>	A	<p>引き続き生徒への意識づけを働きかけ、家庭との協力体制を強化することで、基本的な生活習慣の確立を図っていく必要がある。また、コロナ禍が終息した後の欠席増加数を抑える対策を考える必要がある。</p>
2	<p>〔現状〕 授業に熱心に取り組む生徒が多いが、生徒の学力の幅が大きい。</p> <p>〔課題〕 義務教育段階での学習のつまづきのある生徒の基礎学力の定着をさせ、欠点者数の減少させるとともに成績上位者をさらに伸ばすことが必要である。多様な生徒に対応し、新学習指導要領、通級を踏まえたカリキュラムマネジメント、学習指導技術の向上を図る必要がある。</p>	<p>○授業規律の確立 ○基礎学力の定着と学習意欲を伸ばすための授業力の向上 ○進学・資格取得・学び直しの学習指導 ○校内外の研修会への参加</p>	<p>①チャイム着席、授業規律を徹底し、授業を大切に育てる。 ②学び直しによる基礎基本の学力の向上を図り、学びの対する自信を取り戻し、学ぶ意欲を向上させ、授業に積極的に取り組ませる。 ③主体的・対話的で深い学びを実践するため、カリキュラムマネジメント・指導技術の向上を図る。 ④学期中や長期休業中の進学補講、資格取得補講、定期考査前の補講(放課後寺子屋)を実施する。</p>	<p>①②③④学校自己評価アンケートで、学習指導に関する内容の満足度が80%以上か。 ①チャイム着席・始業は習慣化しているか。 ②成績優良者は10%以上か。 ②③各教科・担当で新学習指導要領や通級を踏まえたカリキュラムマネジメント、深い学びを実践するための指導技術改善について検討されたか。 ④進学補習、放課後寺子屋の参加者が増えたか。 ④資格取得者数が300名以上か。</p>	<p>学校の規律が守られ、生徒の学習指導への満足度も高い水準を維持している。生徒を伸ばすためさらなる指導法の改善を図りたい。 ①②③④生徒の満足度は80%以上、保護者も70%台後半以上と高い水準だった。習熟度別授業や少人数授業、放課後寺子屋、各教科での指導法研究など職員の地道な努力が実ってきている。 ①学年団を中心とした指導により、生徒の時間を守るという姿勢は定着してきている。 ②成績優良者の割合はおおよそ10%であった。 ③通級指導に関する研修会の実施や指導法の検討を行い、来年度からの実施に備えた。授業公開週間を設け、授業研究を行った。 ④進学補習、放課後寺子屋への生徒の参加は昨年と同程度であった。 ④コロナ禍のため、資格取得者数はのべ155名にとどまった(12/31現在)。</p>	B	<p>ブラッシュアップタイムや放課後寺子屋などの指導方法が確立され、効果が出ている。欠点者数は昨年度の3分の2まで減少した(2学期)。上位者を伸ばす指導を検討する必要がある。</p>
3	<p>〔現状〕 就職では、学校紹介による就職希望者の内定率100%を維持している一方、進学実績も向上している。</p> <p>〔課題〕 今年度は新型コロナウイルスが進路活動に与える影響が懸念されるが、生徒の多様な進路希望を実現させるために、進路指導部と学年団が連携して指導にあたる。生徒の進路意識の高揚と自己理解の深化を一層図るとともに、進路実現のために必要な力を身に付けさせる必要がある。</p>	<p>○計画的・継続的な進路指導の実施と生徒全員の進路実現を図る。</p>	<p>①進路指導部と学年の連携により、進路ガイドブック、見学会、体験活動等の進路行事を適切な時期に効果的に実施し、生徒の進路意識の高揚、自己理解の深化を図る。 ②生徒の進路実現に向けて、組織的に補習や個別相談、面接指導をより多く設定し実践力を養い、高い進路意識を持たせ、進路を実現させる。 ③「進路通信」を発行するとともに進路情報、生徒情報を進路指導部、学年、保護者と共有し指導にあたる。</p>	<p>①②③学校自己評価アンケートで、進路指導に関する内容の満足度が90%以上か。 ①②③進路決定者数の割合が90%以上を維持できたか。 ②面接指導を生徒一人あたり5回以上行ったか。 ③「進路通信」を発行し、保護者への進路情報提供ができたか。</p>	<p>コロナ禍においても進路決定は堅調だった。低学年から意識喚起をし、よりよい進路実現を目指していく必要がある。 ①②③進路指導に関する満足度は生徒84%、保護者91%と、昨年度とほぼ同様の高い水準を維持した。 ①②③就職内定率90%。進学希望者の合格者は48名。就職・進学合わせた進路決定者数の割合は80.5%。(1/14現在) ②面接指導はのべ548回、一人あたり約5回行った。JSTや外部講師の活用を図った。 ③「進路通信」を3回発行した(12/31現在)。進路行事の様子や3年生の進路決定状況等の情報提供を行った。</p>	A	<p>就職においてはコロナ禍が引き続き影を落とすと思われるので対策が必要である。1年生から生徒及び保護者の意識づけを計画的に行い、よりよい進路実現を図る必要がある。</p>
4	<p>〔現状〕 地域との交流、地域への情報発信は行っており、地域と連携した開かれた学校づくりを推進している。</p> <p>〔課題〕 中学校の教職員や保護者に面対見の良い学校をPRし、入学志願者の増加を図ることが必要である。</p>	<p>○生徒・PTA活動の様子など本校の良さを保護者、地域、中学生に発信し、連携を深める。</p>	<p>①各分掌、生徒募集委員会の連携により、HP更新頻度を高める、広報誌の配布地域を拡大するなど積極的な情報発信を図る。 ②体験入学、学校説明会、文化祭で個別相談会を実施するなど、生徒募集活動の改善を図る。 ③保護者や地域と連携した活動を推進する。 ④生徒会を中心とした地域連携活動を実施する。 ⑤地域に根ざした本校の状況に応じた防災マニュアルの再検討や研修を実施する。</p>	<p>①学校説明会の参加者数が300人以上か。 ①②HPの更新回数が100回以上か。 ①②10月、12月時点で本校の希望者数が120名以上か。 ③④学校と地域との連携・交流する機会が昨年度より増えたか。 ③保護者の学校行事参加数は昨年度より増えたか。 ④生徒主体の地域連携活動ができたか。 ⑤防災マニュアルの再検討、研修、保健環境情報の発信を行ったか。</p>	<p>コロナ禍の制約がある中、本校の良さを外部に発信し続けたが、志望者の増加には結びついていない。 ①参加希望が多かったため、臨時的学校説明会を設けた。計5回の募集行事に440名超の中学生、保護者が参加した。 ②学校HP更新は100回超の更新を達成し、学校の情報を積極的に発信した。 ①②本校の希望者数は10月時点では昨年度と同数だった。12月は96名と、昨年度より19名減少したが、一昨年度とほぼ同数だった。 ③④コロナ禍のため連携・交流は行えなかった。 ③コロナ禍のため、保護者の学校行事参加はほとんどなかった。 ④地域清掃活動に生徒が熱心に取り組んだ。 ⑤防災マニュアルの見直しは十分に行うことができなかった。</p>	A	<p>コロナ禍ではあるが、地域社会とよりよい関係づくりのため、情報発信や交流などにおいて工夫をしていく必要がある。部活動見学はコロナ禍の制約の中、実施することが困難であった。防災マニュアルの改訂は引き続き課題である。</p>
5	<p>〔現状〕 令和3年度から実施する「高等学校における通級指導」について、準備を進めている。</p> <p>〔課題〕 新しい「高校通級」を構築するために、校内一丸となって取り組んでいくことが必要である。</p>	<p>○地域・中学校・学校関係者に発信する。 ○校内体制を構築する。</p>	<p>①教育課程、指導内容等のカリキュラム編成を行う。 ②生徒のニーズを把握するために中学校や保護者へ情報を発信し連携を深める。 ③教職員へ情報提供、職員研修などを行い、校内一丸となって取り組む体制を構築する。 ④生徒がお互い理解し、個々の取り組みを認め合える学級経営を進める。</p>	<p>①②③④実施に向けてカリキュラム編成ができたか。</p>	<p>研修会や委員会を開催するなど、通級指導の準備を行い、校内の共通理解を図っている。しかし、準備はまだ詰める必要がある。 ①委員会や該当教科を中心に準備を進めている。 ②中学校へ資料の送付や学校説明会での説明で周知を図っている。アンケートからは通級指導への期待が感じられる。 ③情報提供、職員研修は行っているが、校内の体制作りは課題が残っている。 ④各学年団で、教員同士が協力し、受容的な態度で生徒に接することで、よりよい学級づくりを行っている。</p>	B	<p>来年度1学期に実施する通級指導の内容については早急に具体化する必要がある。また、研修を実施することで、職員間の共通理解を強固にしておく必要がある。</p>

学校関係者評価	実施日 令和3年2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・生徒は概ね規則正しい生活をしていることがわかった。一部に出席状況に課題がある生徒がいるので、引き続き指導をお願いしたい。</p> <p>・遅刻指導が功を奏している。</p> <p>・声を掛けるとあいさつしてくれる生徒がとても多い。進んであいさつができるようになることさらに。</p> <p>・コロナ禍で制約が多い中ではあるが、生徒会役員たちが意見箱の設置など意欲的に活動していることに感心した。</p> <p>・部活動も制約の中で精一杯活動していることがわかった。</p> <p>・わかりやすい授業が展開されている。生徒がさらに積極的に参加するような授業をめざしてほしい。</p> <p>・休校中は課題作成など大変だったと思うが、動画配信はよい試みである。上位者を伸ばす指導を検討する必要がある。</p> <p>・1年生からの進路ガイダンス等の計画的な実施で生徒の進路意識が高まっている。</p> <p>・大学進学希望者への指導の充実をお願いしたい(宿題、進学補習、模擬試験の紹介など)。</p> <p>・コロナ禍ではあったが、生徒の頑張りにより、進学・就職とも健闘した。</p> <p>・今年度はできなかったが、また生徒たちに地域の祭りに参加してもらい、交流を深めたい。</p> <p>・生徒たちはボランティアにたいへん意欲的で頼もしい。</p> <p>・学校説明会で生徒の体験談を話してもらうのはとてもよい試みだと思う。</p> <p>・災害時に地域と互いに助け合う体制づくりを今後検討してほしい。</p>